

### ■ 事業のセールスポイント

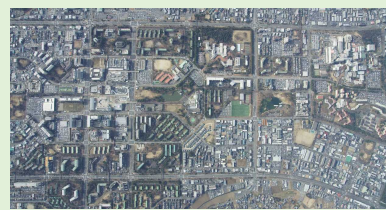
科学技術が集積する「筑波研究学園都市」において、AIによる交通渋滞の事前予防、顔認証による公共交通の利便性向上、環境・生体情報をセンシングするパーソナルモビリティの実装などに取り組み、自動車依存度が高い地方都市において、安心・安全・快適に移動できるまちを実現する。

### 位置図

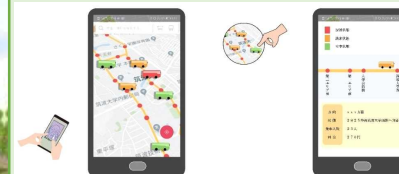


### ■ 本事業全体の概要(4つの取組み)

#### 交通流の最適化による 渋滞等の事前予防



#### 公共交通の利用促進に向けた 運行サービスの充実



### ■ 対象区域の概要

- 名称: つくば市
- 面積: 283.72km<sup>2</sup>
- 人口: 241,808人(R2.1.1)

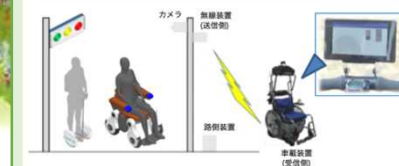
### ■ 対象区域のビジョン

「高齢者や障がい者など誰もが安心・安全・快適に移動できるまち」を目指す

#### 公共交通の利便性向上による 高齢者等の外出促進



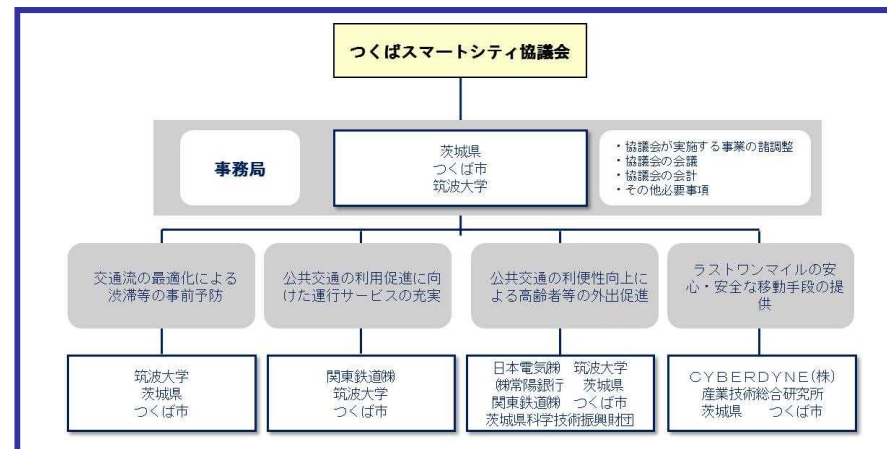
#### ラストワンマイルの 安心・安全な移動手段の提供



## ■ スマートシティの目標(KPIの設定)

KPI項目	現状値	目標値 (達成年度)
日常利用する交通手段が自家用車である人の割合	85.8% (2019年度)	83.5% (2024年度)
高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると感じる人の割合	31.4%件 (2019年度)	34.4% (2024年度)
スマートシティの推進に係るプロジェクトの利用者満足度	- % (2019年度)	47.2% (2024年度)

## ■ 運営体制



## ■ 導入技術

### AIを活用した渋滞事前予測システム

- 交通流のデータを取得、分析することで、渋滞を事前予測するとともに解決につながる最適な交通モデル確立につなげる



### 公共交通機関の最適な運行モデルの導入

- 人流のデータを取得、分析することで、待ち時間コストが最小になる運行計画の導出など、公共交通機関の最適な運行モデルの構築を図る



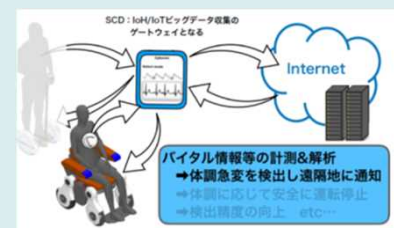
### 顔認証を活用した高齢者外出促進サービス導入

- 顔認証技術を用いた、「バス乗降」「施設受付」「見守り」「決済」など高齢者の外出促進につながるサービスの展開、仕組みの構築を図る



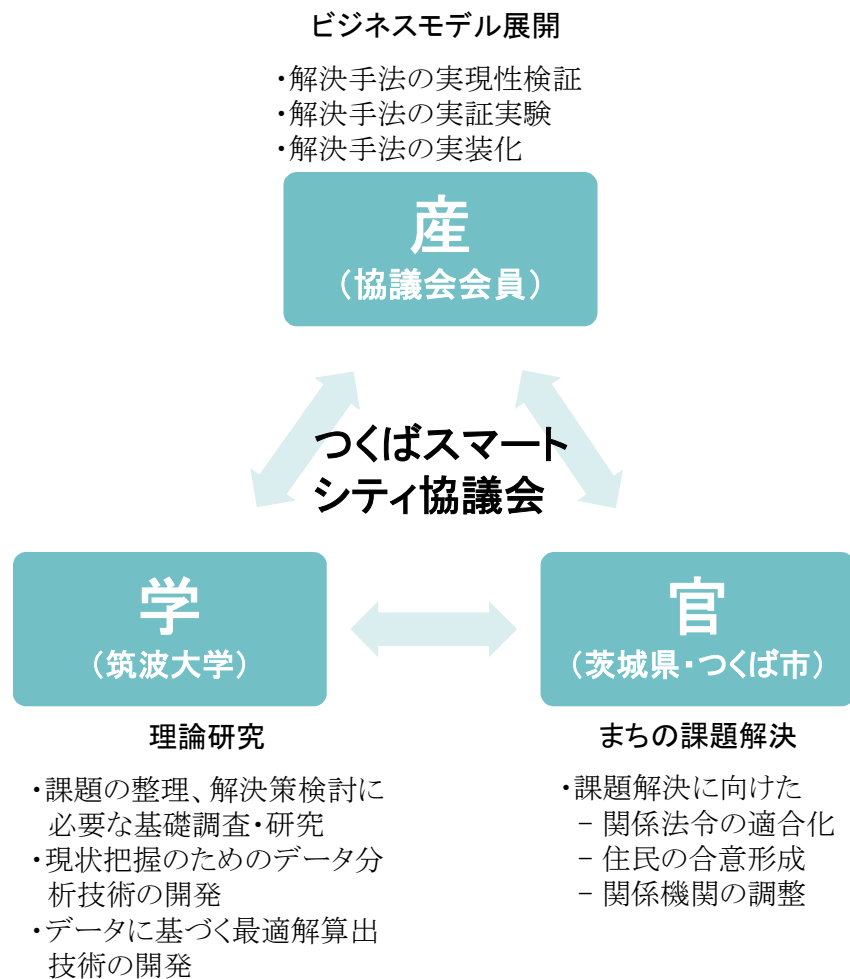
### 交通弱者に対応したパーソナルモビリティの導入

- 交通移動弱者の移動支援につながる人の生理系と一体化した安全なパーソナルモビリティや歩行者信号情報システムと連動した小型モビリティの実装を図る



## ■ ビジネスモデル

### ■ 産学官連携によるビジネスモデルの構築



## ■ スケジュール

### ■ 4つの取組スケジュール

